

環境を見つめながら、主体的に行動する生徒の育成
～SHEL学習や生徒会活動を通して～

岩手県盛岡市立下橋中学校 校長 高橋清之

I はじめに

下橋中学校は、岩手県の県庁所在地盛岡市の中心部にある創立128年目を迎える県内で最も古い伝統ある中学校です。西に秀峰岩手山を望み、東に南部家の居城であった盛岡城址公園（岩手公園）があり、学校の前を流れる中津川には秋になると鮭が上って来る豊かな自然と史跡に囲まれた環境の中に位置しています。

本校では、平成7年度頃から学年単位でリサイクル運動に取り組み、平成8年度には3学年が行っていた高校訪問を「生き方」を考えるための「進路体験学習」として「森は海の恋人体験学習」に変えました。平成9年度には文化祭の3学年テーマを「身近な環境」と設定し全校生徒が参加する「ゴミとリサイクル」についてのパネルディスカッションを実施、卒業記念制作にリサイクルボックスを作製し各教室に設置するなど、徐々に学校全体で環境への取り組みに目を向け、生徒たちが目的意識と自分たちで行うことへの誇りをもって活動に取り組む流れができてきました。

その後、新しく始まった総合的な学習の時間の柱にも「環境学習」が据えられました。

このように、本校の環境教育は「総合的な学習の時間」を中心に据え、生徒会委員会組織にもエコ委員会を新設し、従前から本校の核となっていたJRC委員会、地区生徒会などの生徒会活動とも連動した取り組みを行い現在に至っています。

また、地域においては、地域の小学校やPTAとともに清掃美化活動を行ったり、部活動単位でボランティア活動に取り組むなど自分たちの住む地域に活動の輪を広げ、環境の保護・保全を意欲的に展開しています。

こうして、本校では環境教育での学びを基底におき、さまざまな教育活動とリンクさせながら、「環境問題に関心を持ち、自ら課題意識を持って取り組める生徒」「環境問題への取り組みを通して豊かな人間性を持つ生徒」を育てることを目指しています。

II 本校の環境教育

1 SHEL学習

- (1) 総合的な学習の時間の呼称として本校の「総合的な学習の時間」は次のような意味付けのもと、「SHEL学習」と呼んでいます。

S	…	Simonohasi	下橋中学校で
H	…	human	人と
E	…	ecology	環境を
L	…	learn	学ぼう

- (2) SHEL学習の目標

- ア 豊かな体験活動をもとに、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく解決することを通して、学び方やものの考え方を身に付けさせる。
- イ 地域における体験や人々との交流を通して、問題解決や探究活動に、主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方考えることができるようにする。
- ウ 自然との共存の中で社会に貢献している人を学ぶことを通して、自然を大切に、社会に貢献する態度を育てる。

(3) SHEL学習で生徒に身に付けさせたい資質・能力

① 考える力

ア 学び方、ものの見方や考え方を身に付けさせること。

イ 自ら進んで学び、確かな学力を身に付け、それを生かそうとする姿勢を身に付けさせること。

② 自ら関わる力

ア 主体的にかかわる資質・能力を身に付けさせること。

イ 問題の解決や探究活動に取り組む姿勢を身に付けさせること。

③ 共に生きようとする力

ア 地域とその環境に誇りを持ち、自分と地域に自信を持って生きる姿勢を身に付けさせること。

イ 自分と社会とのかかわりに気づき、広い視野に立ち行動する能力を身に付けさせること。

④ 未来をつくろうとする力

ア 自己の生き方を考えることができること。

イ 環境と自分の生活とのかかわりに気づき、よりよい生活の在り方を考え、自ら実践しようとする事。

(4) 指導する内容

① 横断的、総合的な課題…環境保全や持続可能な社会の構築

② 生徒の興味関心に基づく課題…これからの生き方・人生の歩み方

③ 地域の実態に合った課題…自然観察・地域の産業・地域の人々

(5) 各学年の主な学習活動

① 第1学年

テーマは『身近な視点から学ぼう』

地域の身近な対象について学び、基礎的な知識、自然や生命を感じる心を育てます。

ア 「SHEL道場」

3年間のSHEL学習の目的を理解させ、これからの学習に意欲を持たせるための1泊2日の宿泊研修です。木や森林の役割を学び環境学習への基本的な知識、自然や生命を感じる心を育てます。

小岩井農場で火山灰の積もる不毛の地であった土地が人間の手によって緑豊かな土地に変わったことを学び、小岩井農場の小川や森林などを体感します。

2日目には、岩手大学の演習林で森林の観察、間伐・下刈などの体験をします。

学んだことを班でまとめポスターを作成し、学校に戻り発表会を開催。自分たちの学んだことや考えたことを伝えます。

また、個人新聞を作成し、学んだことをまとめます。



人間が木を切ることは悪いことではない。ただ、寒帯や熱帯などの木を切ってしまうともう木が育たなくなってしまいます。温帯の人工林は人が手をかけることによってよく育ちます。この話を聞いて木と人間の関わりにはバランスが大切だと知りました。

イ 「川体験学習」

岩手県の環境アドバイザーを迎え、川の役割や生物についての学習会を実施します。

その後、学校の前の中津川で、水生生物の観察や採集を行い、身近な環境についての学習を深めます。実際に川に入り、川の流れや自然を体感させます。

② 第2学年

テーマは『社会や人から学ぼう』

現代社会から学び、職場訪問や体験を通して、生きることの意味にふれ、自己の生き方について考えさせます。

ア 「職場訪問・体験学習」

班ごとに盛岡周辺の職場を訪問し、職場体験をします。その際、環境に関わる取り組み等も併せて学びます。

イ 東京への修学旅行で「NGO・NPO訪問」

班ごとに環境保全に取り組むNGO・NPOを訪問し、多面的な視点で環境について学びます。

生徒会が支援するNGO「緑のサヘル」の講演会を実施し、現地の活動報告を聞いて自分たちの活動の成果と今後の活動について考えます。

その他に、中央防波堤埋立処分場の見学を行いゴミ処理の現状を学習するなど、現代の問題について学びます。

ウ 「立志式」

社会の様々な人との繋がりを経験し、磨いた自分の価値観から、元服の年齢に達した自分の決意を「立志のことば」として表現し、全校、保護者、地域の方々が見守る中で発表します。

③ 第3学年

テーマは『つながりを学ぼう』

人類を見つめ、国際的視野に立ち、理想像や未来像を考えながら、社会に貢献しようとする態度を育てます。

ア 「森は海の恋人」体験学習

気仙沼を中心とした宿泊学習を行います。

唐桑半島のNPO「森は海の恋人」を訪ね、牡蠣の養殖作業を体験し海の豊かさを学びます。次の日には、豊かな海を保つため、室根山に植樹を行い、先輩がこれまでに植えた苗木の周りの下刈を行います。

3年間取り組んできた森と川と海の繋がり、室根の山と気仙沼の海で生活する人々の繋がりを学びます。



The sea is longing for the forest.

海を豊かにしてくれる山をつくるためには柞（ははそ）とよばれる広葉樹林が大切だとわかりました。海から上がった牡蠣にたくさんの生き物がついていて海の豊かさに感動しました。今日、感じたこと・学んだことをたくさんの人に伝えたいと思います。

また、「森は海の恋人」の活動の創始者である畠山重篤さんやNPOで活動する方々の生き方、東日本大震災を学びます。

イ 「個人レポート」作成

3年間のSHEL学習のまとめとして、一人ひとりがテーマを決め、レポートを作成します。学級で発表会をした中から代表を選び、学年発表会をします。テーマが合致すれば全校で行われるエコシンポジウムで発表することもあります。

2 全校生徒会としての環境に関わる活動

① エコ委員会の活動

平成11年度、生徒会専門委員会のエコ委員会が発足しました。エコ委員会は校内でのエコ活動の推進とともに、生徒会で取り組むことが決まったサヘル地帯の緑化を進めるNGO「緑のサヘル」の支援活動を進めます。

4月、エコ委員会は新入生が入学するとエコ学習会を開催し、下橋中学校の生徒として必要なエコの基礎知識と心得、「緑のサヘル」の支援活動について伝えます。

7月、夏休みを前に、2度目のエコ学習会を開催し、エコを意識した日常生活の見直しをします。今年度は盛岡市環境部資源循環推進課から講師を呼んで盛岡市のゴミの現状やゴミの分別等について学びました。

2学期の終わりには、エコシンポジウムがあります。昨年度は町を挙げて環境問題に取り組む葛巻町から講師を呼び、基調講演をしていただいた後、「地球温暖化を防ぐ再生可能エネルギー」について話し合いました。

このように、エコ委員会は毎年行われるエコ学習会・エコシンポジウムを開催するほかに、各学級に分別ごみ箱や紙のリサイクルボックスを設置するなど日常的にゴミの減量やリサイクル活動に取り組み、全校生徒や地域のエコに関する知識を深め、環境に配慮した無駄のない生活ができるよう活動しています。



エコシンポジウムで、今日私たちは色々な意見を出し、それに対してある部分については違ってたと指摘され、新しい知識を得ることができました。これにより、また新たな問題意識をもって来年、再来年の勉強に生かしていきたいと思います。



エコシール

卒業記念制作でつくられました。命あふれる自然豊かな地球を守りたいという願いが込められています。電気のスイッチや水道の蛇口付近に貼り、節電・節水を呼びかけます。



リサイクルボックス

卒業制作でつくられました。使った紙を裏面使用が可能な紙と両面使用済みの紙を大きさ別に分け、両面を使用してから、リサイクルに回します。すべての教室にあります。

② J R C 委員会の活動

本校は青少年赤十字に県内ではいち早く加盟（昭和28年）し、生徒たちはJ R C精神である「気づき・考え・実行する」を信条として、常に相手のことを考えて行動し、その延長として自然や地球環境のことを考えた取り組みを行っています。

J R C委員会の企画によるV S活動（ボランティアサービス活動）として、地域の清掃や雪かき等を行っています。

有志による学校の周辺の清掃活動が日常的に行われ、カラスが散乱させた地域のゴミ集積所のゴミを登校途中の生徒が率先して片付け、お礼の連絡をいただくこともありました。

③ 地区生徒会の活動

地区生徒会は全校生徒がそれぞれ住む地区を単位に活動する生徒会の組織です。本校の生徒の約6割はマンション・アパート住まいであり、地域との関係の希薄化が心配される中、自分たちが住む地域との結びつきを大切にしたいと考えています。

そのため、「繋ぎ隊」という組織をつくり、町内会長などの地域の役員さんや民生員さんの家を訪問し、学校便りや学校行事のご案内を届けています。また、地域の商店街の催しの手伝いをするなど地域の活動に参加して、自らも地域の一員であることの自覚を深めます。

地区生徒会の企画の中で最も大きな行事は、すべての地区が参加する「地区合同清掃」です。盛岡市では8月1日から4日に「盛岡さんさ踊り」が市内のメインストリートを会場に行われます。30年以上にわたり毎年、盛岡さんさ踊りの開催中に、すべての地区が合同で「さんさ踊り」で多くの観光客の訪れる学区内の清掃活動を行っています。地域の方々、保護者の方や小学生に協力を呼びかけて、朝6時から500人近くが参加して、自分たちの街をきれいにし、街の伝統あるイベントにも一役買っています。



朝にさんさ踊りの会場を清掃している様子。

生徒会の役員が学区にある2つの小学校を訪問し、合同清掃への参加を呼びかけ、参加してくれた小学生にはエコシールをプレゼントします。

④ 部活動単位でのV S活動

部活動でボランティア活動を行うこともあります。毎年行われているのは、盛岡城址公園（岩手公園）の亀ヶ池の清掃です。

このような努力もあって、盛岡城址公園では、夏にホタルを観察できる場所があります。



3 P T Aと協力した活動

2学期の休日の朝、本校の父母と教師の会の皆さん（P T A）と生徒たちが協力して学校の前を流れる中津川の美化活動を行います。定期的な清掃活動を行うことにより、清流を維持したいと思っています。



下橋中学校周辺の池や川原を清掃している様子。
下橋中学校は米内光政・金田一京助・石川啄木など、多くの偉大な先人を輩出しています。各界で活躍する先輩の生き方を学び、自らが誇りをもって社会に貢献できるよう、一人ひとりが考えを深めています。様々な賞を通しながら多くの先輩たちがコツコツと取り組んできたことが認められた思いをさらに強くしています。

III おわりに

環境教育についても大切にしているのは「気づき、考え、実行する」という学びのプロセスです。

環境教育のスタートは、生命のきらめき、自然の恵みを体感することから始まり、そこから色々な気づきが生まれます。生徒たちは、森や川、海の自然を体感し、林業や漁業に従事する人々やそこで活動するN P O・N G Oの人々の生き方に触れます。

環境教育の中心に据えているS H E L学習ではディスカッションの機会を多く設け、自らの考えをもつこと、意見交換をして高め合っていく力を育てます。すべての単元の終わりには振り返りの時間を設け、考えたことや成果と課題をまとめて発表し、人に伝える力を育てることも大切にしています。

また、自分たちにできることを実践するための場として、委員会活動などの生徒会活動を活用します。学校生活のすべての場面で自分たちで企画し進める機会を与え、考えたことを実行する力をつけ、「明るい未来を築いていける人」「様々な問題に直面しても対応できる人」と育てたいと考えています。

そして、自分たちにできることは学校生活に留めず、環境保護・保全のための活動を家庭や地域に伝え広め、発信する力と取り組みを継続させる力をつけます。

これからも、命をつなぐ心と、様々なつながりを大切に育て、「環境を見つめながら、主体的に行動する生徒の育成」を目指していきます。